



●大神山神社奥宮の幣殿内部

白檀塗りの鮮やかな柱や壁は国内最大級、天井の彩色画も見事です。



●杉木立の中に佇む大神山神社奥宮神門

明治の寺号廃絶による解体の際に残された西楽院の表門。県指定保護文化財となっています。



大山寺阿弥陀堂

篤い信仰は今もなお

平安時代に始まった大山寺の祈願儀式で、古くから「大山さん」と呼ばれ親しまれてきた「御幸(みゆき)」。

昔は牛馬市も開催され、全国各地から大勢の人々が詰めかけました。法要の後、1200年前から燃え続ける「不滅の法灯」を先頭に、厄年の男性らが担ぐ神輿と稚児や僧兵、平安貴族など、古の装束をまとった人々が大山寺参道を練り歩く様は時代絵巻そのもの。今も3年に1度、開催されます。



御幸



木造阿弥陀如来及両脇侍像

■大山寺阿弥陀堂

室町時代、天文21(1552)年に再建された大山に現存する最も古い建物。中には、大仏師良圓の作とされる金色に輝く阿弥陀如来と観音と勢至の両菩薩を安置する。お堂も仏像も国の重要文化財。毎月18日に扉が開けられ仏像を拝観できます。

はいぶつ きしゃく 廃仏毀釈と大山寺の復興

明治時代となり、廃仏毀釈により大山寺の号が廃され、大山寺は大きく衰退。本殿であった大智明権現社は、大己貴神(大国主命)を主祭神として大神山神社奥宮と改められました。

明治36(1903)年に大山寺号の復活が許され、かつての大日堂を本堂とする大山寺が復興。現在、本堂の他、阿弥陀堂や寺宝を収蔵する霊宝閣があり、平成28年にはかつての境内地が、国の史跡大山寺旧境内として指定されました。



採灯護摩法要



日本遺産

地藏信仰が育んだ 日本最大の牛馬牛馬市

11世紀末、大山の地藏菩薩は万物を救うと信じられ、地藏菩薩を祀る大山寺の牛馬の守り札を求めて大山に牛馬が集まるようになり、やがてそれが牛馬市「大山博労座」になりました。明治中頃の最盛期には年間1万頭を超す牛馬が集まる国内最大の牛馬市となり、市は昭和12(1937)年まで続きました。



昭和6(1931)年大山牛馬市

参拝の手引き

■大神山神社奥宮(国指定重要文化財)

TEL. 0859-52-2507(奥宮)
料金／境内自由 ※幣殿は志納金が必要
※冬期積雪で通行困難

■大山寺本堂(国登録有形文化財)

TEL.0859-52-2158
開／9:00~16:00 4月1日~11月30日
料金／参拝志納金 大人…300円 小人…200円
※宝物館「霊宝閣」入館料含む

■大山寺阿弥陀堂(国指定重要文化財)

TEL.0859-52-2158
開／境内自由
※堂内拝観は4月~11月の毎月18日
料金／境内自由 ※堂内拝観は1名500円
※座禅は要事前相談